

# 合格 体験 記



滝 陽翔 たき はると  
元 香川県立高松工芸高等学校  
工業化学科 3年

## 甲種危険物取扱者の合格までの道のり

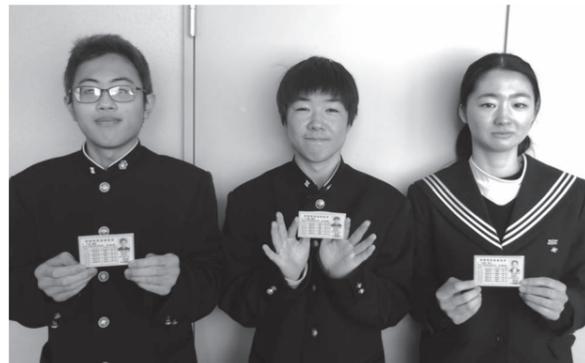
### 1. 受験のきっかけ

私が通う香川県立高松工芸高等学校の工業化学科では危険物取扱者の資格取得に力を入れています。私は1年生の2学期から乙種第4類の勉強を始め、免状についての学習で甲種危険物取扱者の資格について教えてもらいました。当時は資格の勉強に慣れておらず、どのように勉強するか手探りの状態だったため、甲種のことを考える余裕もなく自分には関係のない資格だと思っていました。

その後、順調に乙種危険物取扱者全類を取得できた後、甲種危険物取扱者のことを思い出し、今まで学んできた知識を活かすことができるのではないかなと思うようになりました。3年生になり、受験をしようか考えるなかで、「甲種を受けるより他の資格を取得したほうがいい」、「就職試験のための勉強をしたほうがいい」などさまざまな葛藤がありました。そんな中、クラスメイトの中に甲種危険物取扱者を受けたいという生徒がおり、一緒に助け合いながら切磋琢磨して合格できるのではないかと考え受験することを決めました。また、人生で一度しかない高校生活を友人と同じ目標に向かって努力することで有意義な学校生活を送ることができると思いました。



工芸展（理科部）の様子



一緒に合格したクラスメイトと

### 2. 乙種危険物取扱者と甲種危険物取扱者の勉強方法

乙種危険物取扱者の勉強方法としては、最初は参考書を中心に読み、ある程度内容を把握してから問題を解いていきました。しかし、私はこれだけでは類ごとの危険物を覚えることができなかつたため、1つの物品を中心に覚え、そこから樹形図のように派生させる方法で勉強を進めました。この方法を行ってからはすらすらと頭に入ってきたため、この勉強方法が自分に合っていると感じました。問題を解く中でわからないところは答えを見て、逐一メモを取り同じような問題が出てきた場合にすぐに思い出せるように工夫しました。

甲種危険物取扱者の問題を最初に見て、今まで学んできた内容をより深めた内容だと感じました。まず、すべての類を復習し、乙種では出題されなかつた問題はインターネットを活用したり、参考書を購入したりして常に新しい情報を頭に入れるように心掛けました。その結果、知識が深まってきている感じがし、危険物の勉強に興味を持つことができ、学ぶことが楽しくなりました。しかし、物理化学の分野では難しい計算や習ったことのない単語が多く出てきたため、もしかしたら合格できないかもしれないという不安感にかられる時がありました。その時は、気をまぎらわすために別の分野を勉強したり、先生に聞いたりして不安感を軽減し

危険物の勉強を楽しく思えるようにしました。コツコツ勉強に取り組んだ結果、日に日に新しい問題が解けていくごとに、自分が成長していることが分かり、喜びを感じられるようになりました。問題が解けるようになってからも慢心をせず一つ一つ問題演習をこなしていくことを心掛けて勉強を続け、受験にのぞみました。

### 3. 甲種危険物取扱者試験の終了後

資格試験が終わった後は、いくつかの問題で間違ってしまったのではないかという思いにかられ、悲観的になってしまい、日が経つにつれて不合格になっているかもしれないという気持ちが強くなりました。合格発表の日には試験結果通知のハガキを先生から受け取った時は生きた心地がしなかつたことを覚えています。「合格」と書かれた結果を見たときは心の底からうれしかったです。また、一緒に甲種危険物取扱者の試験を受験した友人も2人合格することができました。今思えば、クラスメイトと勉強できていなければ甲種危険物取扱者に合格できなかったと思います。

### 4. 甲種危険物取扱者試験の合格後

合格後、就職試験に向けて面接原稿を考える中で乙種危険物取扱者全類と甲種危険物取扱者の違いが気になり、調べてみました。大きな違いはありませんが危険物保安監督者に選任された場合、講習を受けなくても防災管理者や防火管理者になる資格を得ることのできたことでした。甲種危険物取扱者のメリットを知り、挑戦してよかったと改めて感じました。

また、就職試験の際に甲種危険物取扱者に挑戦し合格したことを自己アピールとして面接官に伝えることができたこともよかったと感じています。この経験から小さなことの積み重ねが人生に大きくかわることを学ぶことができました。

### 5. 資格取得を振り返って

高松工芸高校に入学してから現在まで多くの資格を取得してきました。

その中でも甲種危険物取扱者は2番目に難しい資格でした。今まで学んできた知識を活かして問題を解くことができたため、今となっては比較的簡単だったと感じています。一番難しいと感じたのは2年生で挑戦した「ダイオキシン類関係公害防止管理者」の資格です。今まで学んだことのない分野が多くあり、解く以前に膨大な量の内容を覚えることに苦戦しました。知識を定着させる



ダイオキシン類関係公害防止管理者の合格者と

ために放課後まで残り過去問を解いたり、先生に質問したりしました。その結果、全国10代合格者3名のうちの1人として合格することができました。今思えば、2年生の時の公害防止管理者ダイオキシン類に挑戦した経験があったからこそ甲種危険物取扱者の資格の勉強も乗り越えることができたと思うと強く実感しています。

### 6. 最後に

難易度の高い資格に挑戦することは大変でしたが私の高校生活を充実させてくれた要因だったと感じています。高校卒業後は取得した資格を活かして、社会に貢献できる社会人になりたいと強く思っています。

また、今後は公害防止管理者の大気と水質に挑戦したいと考えています。小さなことをコツコツと積み重ねていくことができればいつか良い結果がついてくると信じています。今までの資格取得での経験を活かしてこれからも勉強に励み、多くの資格に挑戦し続けたいと思います。



校舎

(編集部から) 今回の合格体験記は、滝陽翔さんが高校在学中にご執筆いただいたものです。滝さんは、この3月に高校を卒業され、現在は社会で活躍をされています。貴重なご体験をご紹介いただき大変ありがとうございました。

# 合体 格 験 記



松田 亘 まつだ わたる  
北海道北見工業高等学校  
電子機械科 3年

## 甲種危険物取扱者試験への挑戦

### 1 危険物取扱者試験受験のきっかけ

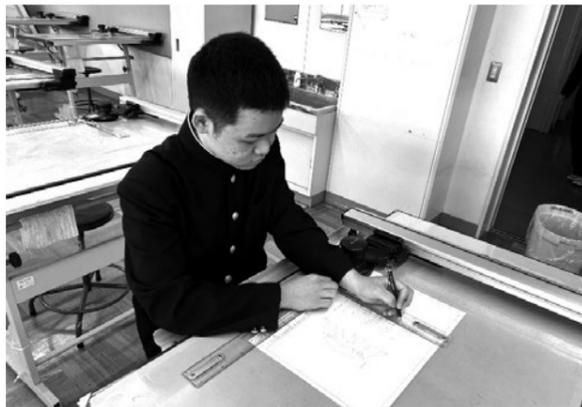
私が危険物取扱者という資格があることを初めて知ったのは工業高校に入学してからでした。1年生のころに電子機械科の先生から、クラス全体で乙種4類危険物取扱者の試験を受けるかを聞かれてそこで初めて知りました。そこで私は高校でなにか頑張ったことを増やしたかったので試験を受けることを決めました。

### 2 乙種第4類取得

学校で講習会を開いてくれるということだったので、まずはそこで勉強をしました。前半は法令、物理化学、性質消火の3つの科目の大事なところを一通り学び、後半は模擬問題をひたすら解いていました。講習は放課後に1時間ほどありました。私は講習のある日は遅くまで残って勉強していました。

家での勉強はスマホアプリなどを使って勉強したり、繰り返し書いて手で覚えたりしました。また、暗記系は学校の休み時間を使って勉強することで時間を有効に活用するようにしていました。私はこういった資格試験を受けることが初めてだったので勉強の仕方考えるのがとても大変でした。

勉強の中で大変だったことは、危険物の名前や引火点などの性状を覚えることです。名前が似たような危



製図実習

険物があってどっちがどっちの性状かわからなくなることもあったので、化学式と一緒に覚えることで記憶できるように工夫しました。覚えることが色々あって大変でしたが過去問によく出題されるものは確実に覚えるようにしました。

試験前日はこのような資格試験が初めてでどんな雰囲気の中で行うのか、その中でしっかり100%の力を発揮できるか色々不安でいっぱいでした。そして試験当日になりました。試験会場までの移動中も参考書を読んでいた。会場に到着してからもできるだけ頭に内容を詰め込みました。それから試験が始まり、問題を解き始めました。試験時間にはかなり余裕があったので一問一問しっかり文章を読んで解いていきました。回答が合っているか怪しい問題には印をつけて後回しにし、一通り解き終わった後は2回ほど見直しをして途中退出しました。

試験の結果は合格でした。数日後に結果通知書が届いたので再度合格していることを確認しました。通知書にある正答率の中で一番低かったのが物理化学の70%だったので不合格の可能性も有り得ました。試験でも全くわからない問題が1問あったので、出題されやすい問題を解くのもいいですが出題されにくい問題も何回か解いてみると良いと思いました。



旋盤実習

### 3 乙種全類取得(2年生)

乙種第4類に合格した私は次に全類取得を目指すことにしました。

乙種を持っていれば一度に3種類まで受験することができるので私は一回目に乙種の1類・2類・6類、二回目に乙種の3類・5類を受けることにしました。1類・6類は酸化性物質で似ていて、2類は3類・5類よりもわかりやすそうだったのでこの順番で受けることにしました。さらに乙種を持っていれば性質消火のみの受験となるので、乙種4類の試験よりは簡単でした。

科目が性質消火のみなので主に参考書を読み勉強しました。記憶するためには思い出すことが重要だと思いましたので一回覚えたら時間を置き、もう一度見たときに覚えているかを確認することで記憶を定着させていきました。

試験については試験時間が1つの類ごとに35分で短くなりましたが、範囲が性質消火のみだったので時間には余裕がありました。結果は大体80%以上で合格できましたが、出題されると思っていないようなところが出題されてわからないところもあったので、より細かいところまで覚えたほうがよいと思いました。

### 4 甲種取得(2年生)

危険物取扱者の乙種を全類取得した後、甲種は難しく正直受けても合格できないだろうなと思っていたので、試験を受けようか迷っていました。ある時乙種第4類の参考書を読みながら甲種を受けようか考えていたのですが、担任の先生に甲種を受けるのが聞かれて、勢いで受けると言ってしまいました。いつまでも悩んでいると時間ももたないなので、このとき受けると言ったよかったと思います。

次の試験日はしばらく後なので、そこに向けて勉強を始めました。甲種の勉強については科の先生から参考書を借りて、主にその参考書を使って勉強しました。他にもインターネットで調べると過去問が出てくるのでそれも利用しました。

甲種は法令が変わらず、物理化学は範囲が広くなり、性質消火は問題数が増えて範囲が広がります。この中でも難しいと思ったのが物理化学です。参考書を見てみると乙種に比べて知らないことが多かったからです。大半が初めて見るような公式や名前がいっぱいでした。初めて知ることが多く、参考書のわからない言葉などをインターネットで調べて勉強したので苦労しました。



マシニングセンタによる切削加工実習

試験当日は、やはり物理化学の問題が難しかったです。予想していなかった問題が出題されて、答えに自信が持てない問題もいくつかありました。できるだけ色々なことを考えて、迷った末に答えを決めました。6割合っていれば合格で4問までなら落としてもよいので、自分の感覚としては不合格もありえるかもしれない、という感覚でとても不安でした。

それから11月を迎え、合格発表の日になりました。その時期は就業体験や検定試験が控えており、色々忙しかったのを覚えています。ホームページで受験番号を検索すると、自分の番号を見つけました。このときは学校で見ていて本当に合格したのか信じられなかったので、何回も確認しました。家に帰宅すると結果通知書が届いており、中を見てみると合格の文字がありました。私はそこでやっと合格したことを実感しました。

### 5 甲種危険物取扱者を取得してみても

甲種危険物取扱者を取得して一つ思ったことは、難しいと思っていた事でも一生懸命頑張ることで達成できるということです。なのでやる前から難しいと諦めないでとりあえずやってみる。少しやってみると難しくも思わなくなりました。そういうことが大事だと思います。それに、合格することで自分はこれだけのことを頑張ることができるという自信にもなります。

ですが資格試験には多くのお金がかかります。私の場合は試験手数料、収入証紙代、参考書代だけで5万9000円ほどかかっていた。他にも借りた参考書や細かい金額も含めると、6万円以上かかっていると思います。これだけの金額を自分に使ってもらった親にはとても感謝しています。他にも自分の身の回りにいる、力を貸してくれた人たちにもとても感謝しています。

# 合格 記



河野 朔良 こうの さくら  
広島県立宮島工業高等学校  
電気科 2年

## 甲種危険物取扱者試験の試練

### 1 受験のきっかけ

私は、中学生の頃から「早く働いてお金を稼ぎたい!」と思っていました。就職するまでに、他の生徒と差をつけたかった私は、今からでもできる事がないかを調べていると資格で就職に有利になることに気が付きました。

そこで、何の資格取ろうかと調べていると危険物取扱者が目に留まりました。私は、そのあからさまにデンジャラスな名前に惹かれ、受験することを決意しました。

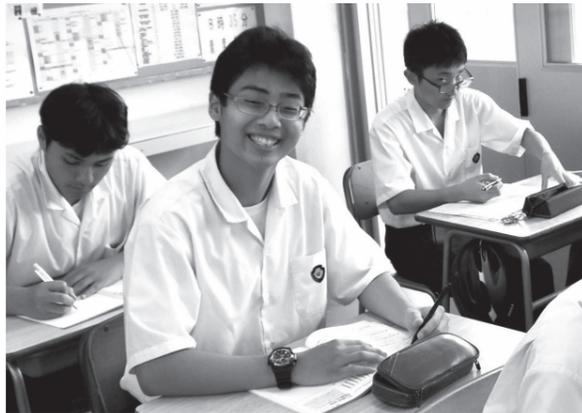
私がこの資格を受けようとしたきっかけは名前がカッコよかったから、というなんとも単純な考えでした。

### 2 乙種4類合格までの道のり

最初は、危険物取扱者って何だ?と疑問に思ったので調べてみて乙種1、2、3、4、5、6類までであるということが分かり、インターネットで調べてみると、「初めに取るのは乙種4類!」とあったので、「じゃあ乙4取るか!」と軽い気持ちで勉強を始めました。

手始めに、某有名ネットショッピング「A」で参考書を買って、家に届くまで楽しみだなと思いながら待ち、届いたらさっそく勉強を始めました。私はその時、中学三年生で時間はたっぷりとありましたが、ここで早くも大きな壁にぶち当たったのです。それは何かというと、「モチベーション」です。最初の方は学習意欲もあり、資格を得るために勉強に打ち込んでいました。しかし、日が経つにつれてだんだんと勉強する意欲も削がれていき、流されるようにもういやと投げ出してゲームに逃げていくようになりました。更に私自身飽きやすい性格だったのも災いして、春休みに入ってしまうと勉強もろくにせずにゲームばかりしてしまっていました。

そして時が経ち、高校に入学して資格のことなどとうに忘れてしまっていた矢先、学校のSHRで「危険物



取扱者受験」といったフレーズを耳に挟みました。そう、受験の申込期間です。焦った私は、モチベーションを低下させないように毎日何時間もやるということはせず、数十分でもいいのでとにかく勉強を継続させることを重要視しました。

危険物取扱者試験では、法令、物理化学、性質の3つの試練を乗り越えなければなりません。例えば、法令や性質では、危険物の指定数量や消火方法などの知識が求められます。私は幸い暗記が得意だったのでこれらについては特に苦戦することはありませんでした。しかし、私が一番苦戦したのが物理化学で、授業でまだ勉強していなかったため、計算などがよくわからず、頭がこんがらがりました。

試験当日、初めての国家試験に緊張しながらも時間を余すことなく使い、勉強した成果を存分に発揮して令和6年の7月に、無事に合格することができました!(合格!ヤッター!)しかし、モチベーションが続かずにダラダラとしていた時間が多く準備不足、焦っていたこともあり、苦手な分野で分からないことに対する効率の良い勉強の取り組みをしていればよかったと反省しています。

### 3 甲種の受験資格取得

さて乙4合格しましたよ、よかったね…ってちょっと待った!乙4だけってどこもなく寂しい!と思って、どうせなら全部取ってやろう!と考えていた時に初めて「甲種」の存在を知りました。

しかし、甲種を受験するにあたって受験資格が必要になります。私の場合乙4を持っていたのですが、最低でも3類、5類と1類か6類を取得しなければならなかったため、私はすぐに某有名通販で参考書を買って令和6年の10月に1、3、5類を取得しました。乙種をどれか一つでも取得していると、法令と物理が免除になるので3つ同時に受けたのですが、3類だけ正答率が60%とギリギリで、いくら出題数が少なくなるからと言って油断してかかるとは最悪試験に落ちかねなくなることを身に染みて感じました。

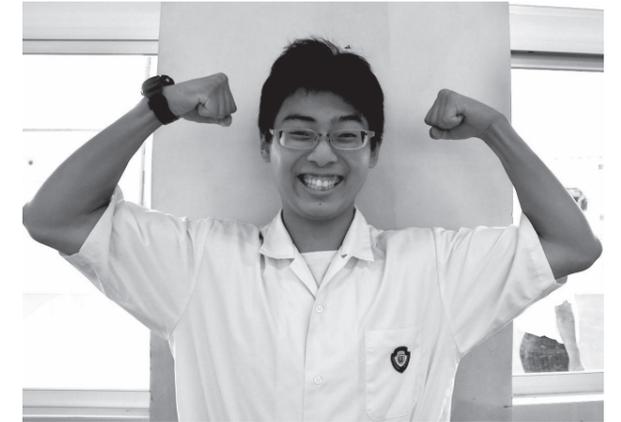
### 4 そしてついに甲種危険物取扱者取得

ついにここまで来ましたね、ラスボスです。乙種とは難しさが一段と違います。正直、参考書を少し見ただけで「これ受かるかなあ?」と凄く不安になりましたが、勉強の要領は乙4のおかげでなんとなく分かりましたから、後は勉強あるのみです。

実際に物理化学の計算問題は意味が分からないものが多くありました。「水素イオン指数の計算なんていつ使うんだよ!」なんて思ったりしながら計算していました。そして、性質なのですが、言ってしまうと乙種の内容を1から6まで受けるようなものなのですから、乙種を受ける場合の6倍みたいなものです。そこはもう根気強く覚えるしかありません。法令もまた然りです。

そして試験当日、暖房がよく効いている部屋で、今まで勉強してきた内容が頭から少しでも零れないように何度も色々な単語を脳内で巡らせては反芻し、咳をしては手に汗を握り、問題を解いていくにつれて冷静になり、じっくりと一問一問吟味しながら解き切りました。見直しも欠かすことなく。本当は友達と受験する予定だったのですが、友達は高熱が出て来られませんでした。(その試験翌日、私も高熱が出ました。)

さて、気になる結果は「合格」でした。(令和7年



の3月に合格)モチベーションが低下してもなんとか勉強を続けてきて本当に良かったです。乙種を取ることで得た知識と経験がなければ甲種合格は無かったと思います。

### 5 おわりに

この甲種危険物取扱者試験を受験してみて思ったことは、一番の敵はモチベーションの維持です。モチベーションがもたない、そんな時は、やる気がなくてもとりあえず参考書を開いて数分でも勉強をしたらいいと思います。勉強は継続が大事なので、モチベーションが低下しても頑張ってください。しかし「名前がカッコいい」、からここまで勉強することになるとは思いもしませんでした。私は将来どんな仕事に就くのかまだ想像が付きませんが、資格をとるまでに培った経験や知識を生かせるような仕事に就けたらいいなと思います。危険物取扱者、興味があったら是非、挑戦してみたいですか!

# 合格記

## 総合化学メーカーへ就職するために

### 1. 学校紹介

八女工業高校は、福岡県下で三番目の県立工業学校として、大正9年に創立され今年で105周年を迎えた長い歴史と輝かしい伝統を誇る工業高校です。約3万名の卒業生は、産業界を中心として各界で、それぞれの分野の発展に大きく貢献されています。

現在は電子機械科・IT自動車科・電気科・情報技術科・土木科・工業化学科の6学科を有する県下屈指の工業高校として、また地域社会に認められた高校として充実・発展を遂げています。部活動加入率約95%、複数の部活動が県大会・九州大会・全国大会に出場しています。また資格取得等にも力を入れており、文武両道を実践しています。「誠実・勤勉・協調」の校訓の下、在校生は先輩方の功績に支えられながら、人間性豊かな産業技術者を目指し、進路実現に向けて邁進し続けています。



### 2. 学科紹介

本校工業化学科は昭和38年4月に設置され、今年で62年目を迎えます。平成15年9月に新実習棟、23年4月にプラント実習用連続精留装置、本年3月には原子吸光度計が更新され、化学工業等の分野において製造や分析等に関わる実践的技術者、更に知識や技術を高めるための進学等を目標として勉学に励んでいます。

学年を問わず工業化学科生徒115名の仲が良く、親しみの中にも礼儀を大切にしながら、学校行事や資格取得など、一緒に頑張っています。専門教科8名、学科所属の普通科4名の先生方とも、敬語で冗談が言い合えるよ



田中 遼 たなか りょう  
福岡県立八女工業高等学校  
工業化学科 3年

うな雰囲気、コミュニケーション能力を向上させながら、明るく・楽しく・元気よく学校生活を送っています。

### 3. 進路状況

工業化学科の令和7年3月卒業生(39名)については、就職32名、進学6名、公務員1名です。就職先は化学工業・食品加工等の製造業であり、危険物取扱者の知識を活かすことができる関連業種に就職しています。また、23名が自宅から通勤しています。

学校全体としては、企業への就職が約60%、公務員が約20%、進学が約20%です。

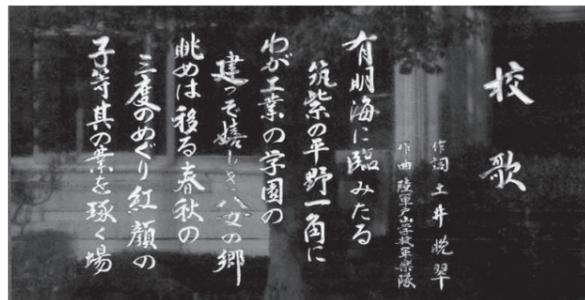
### 4. 危険物取扱者取得者数

工業化学科3年生(35名) 令和7年9月30日現在

甲種	乙種						
	1類	2類	3類	4類	5類	6類	全類
4	13	14	26	31	24	24	12

八女工業高校では、1年生の11月に電子機械科、IT自動車科、工業化学科はクラス全員、電気科、情報技術科、土木科は希望者が、危険物取扱者乙種第4類を受験します。どの学科の生徒も、乙4取得後はその他の乙種にチャレンジし、不合格だった生徒も、再度乙4にチャレンジします。

部活動加入率ほぼ100%の本校では、試験と試合が重なることがよくあります。「だったら、受験しない」という選択にはならず、「だったら、学校以外で受験しよう」という流れになります。学校では、6・11・3月に試験が実施されています。福岡県、佐賀県、熊本県でもそれぞれ年に3回ずつ実



施されています。危険物取扱者試験担当の先生から、担任の先生に試験の日程などの情報が届きます。そして受験申請から免状受取まで、学校での試験と同様に先生方が対応してくださるので、安心して学校外でも受験できます。

### 5. 自己紹介

#### (1) 八女工業高校工業化学科に入学した理由

私にとって、父は憧れの人です。父と同じ道を進みたいと思い、八女工業高校の工業化学科に入学しました。とても真面目で、何事にもまっすぐ向き合い、仕事に対しても妥協しない、努力の人である父は、私にとってはとても怖い存在です。特に叱られるわけではありませんが、日頃ほとんど話すことはありません。

夏休み前から、就職試験の面接練習が始まりました。しかし、9月に入ってうまく話すことができませんでした。「人生の先輩である、お父さんと話さない。」と先生から背中を押され、父と初めて就職について話をしました。何かがすっと取れた気がしました。次の日から、スムーズに話すことができるようになり、無事に就職試験を終えることができました。そして、父と同じ総合化学メーカーから内定をいただきました。

#### (2) 部活動について

中学校からバスケットボールを始め、高校でもバスケットボール部に入部しました。50名弱の部員がいる中、ユニフォームをもらえることはありませんでした。誰よりも大きな声を出すこともできませんでした。しかし、とにかく走った6年間だったので、長距離が得意になりました。

#### (3) 危険物取扱者甲種取得について

1年生から3年間担任をしてくださっている古賀先生は、「乙4だけではなく、乙種全類が甲種を取って卒業しよう。」と、入学時から言われていました。ですから、私のクラスでは危険物取扱者甲種受験は、当たり前のことでした。しかし、いざ勉強を始めると簡単ではありませんでした。先生からの指導もありましたが、「今までこんなに勉強したことがない」と言えるほど、自宅での時間もほとんど勉強に費やしました。試験当日は、「履歴書に書ける最後のチャンス」というプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、必死に問題と向き合いました。

結果をじっと待つこともなく、二級ボイラー技士の勉強が始まりました。試験の前に1学期期末考査もありましたが、良い成績を修めることができました。甲種にチャレンジしたことで、勉強のコツ、時間の使い方、意識を自

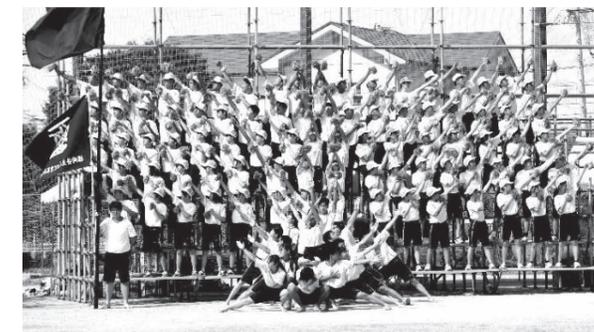
分でコントロールできるようになっていました。

そして、忙しい日々を過ごしている間に甲種の結果がやってきました。「合格」、努力は報われると思えた瞬間でした。その後、二級ボイラー技士試験も無事に合格しました。甲種免許を取得するまでの道のりが、そこで終わることなく今でも続いているように感じます。

### 6. 最後に

10月18日に実施予定の体育祭では、応援団員をします。あまり人前に出ることが得意ではない私にとって、もの凄いの決断でした。応援団の練習は、夏休みから始まりました。就職試験の勉強、面接練習などと並行することはとても大変でしたが、1、2年時とはまた違った、とても忙しく充実した夏休みでした。

工業化学科では、3年生14名、2年生3名、1年生2名で応援団が結成されています。工業化学科は、3学年とも約半数が女子生徒なので、応援団員も約半数が女子です。他の学科はほとんどが男子生徒ですが、工業化学科らしい演舞で優勝を狙います。



総合化学メーカーへ就職するために入学した八女工業高校ですが、進路実現するだけでなく、それまでの過程がとても大切であることを学びました。高校で資格を取得することは、みんなが取るため、履歴書に書くため、採用試験で合格するためなどと思っていました。しかし、危険物取扱者甲種に挑戦したこと、合格したことで、自信ができました。人として成長することができました。そして、このような機会を得ることが出来ました。合格できて良かったです。

12月には文化祭があります。これからの学校生活を満喫しながら、3月1日の卒業式と4月1日の入社式を無事に迎え、しっかりと親孝行していきます。



# 合格 記



吉田 森音 よしだ しおん  
青森県立北斗高等学校  
普通科(定時制課程) 2年

## 甲種危険物取扱者を夢見て ～挑戦と挫折、そして未来へ～

### 1 危険物取扱者に挑んだきっかけ

私が中学三年だった頃、周りの友人が運動部などで実績を収めていました。しかし、自分はこれといった努力をしたこともなかったために、周囲と差がついてしまって劣等感を感じるようになっていました。そんな時に家族が持っていた危険物取扱者という資格の存在を知り、「この資格を勉強することで、自分は変わることが出来るかもしれない」という理由から、この資格を受験することを決意しました。

### 2 初の資格取得、乙種第四類

大前提として、危険物取扱者の試験は「法令」、「物理化学」、「性質及び消火方法」の三種類に分かれています。これらはいずれも60%以上を得点しなければならず、満遍なく学習する必要があります。そのため、勉強の際のバランスも考える必要があります。

広い範囲をカバーすることが求められる資格のため、勉強を本気でやってこなかった自分にとっては勉強の仕方がわからず、どこから手をつければ良いのかさえ分かりませんでした。まずは、インターネットでおすすめされている参考書を吟味した上で、短期間で合格できると謳っている参考書を購入し、ひたすら読み込みました。

寝る前や食事の前後、学校や家では常に参考書を持ち運び、分からなくても構わず読み進めることを徹底していました。そうしていくうちに内容が概ね理解できるようになったので、そこからは過去問によるアウトプットに全力で力を注ぎました。ゲームの時間も寝る時間も食事の時間も、全てを削りながら過去問とテキストを反復していくと、いつか一日で過去問を150～300問解けるまでに成長しました。そこから更にペースをあげて390ページの過去問を1日で周回するという勉強方法を確立し、最終的には

過去問を20周以上はしていました。その状態で受けた乙種第四類の試験は正答率が法令は8割越え、それ以外は10割という結果で合格することができました。

### 3 甲種へ至る道、乙種全類制覇

乙種第四類に合格後、私は高校に入学しました。この乙種第四類の合格後はしばらく勉強から離れていましたが、担任から「乙種第四類の資格を持っていることは凄いことだ」と言われたことで自信が付き、甲種危険物取扱者を取得することを目指しました。ただし甲種危険物取扱者の受験には乙種を4種類以上有すること等が受験資格となっていることもあり、この受験資格を満たすために乙種全種類を取得することにしました。

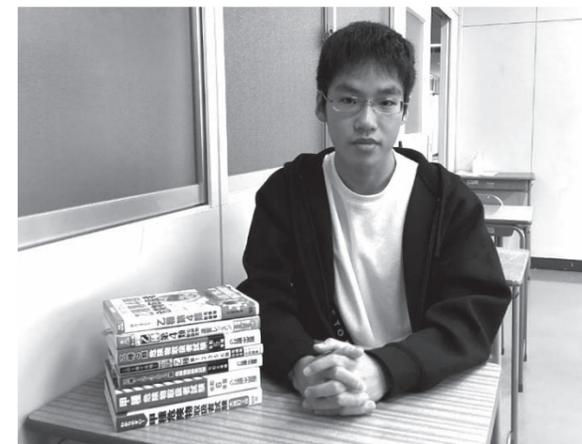
まずは乙種第二類と第六類の勉強を開始しました。この段階で乙種第四類に合格していたので、試験科目の免除措置を使って受験をしました。これは「性質及び消火方法」以外を解答しなくても良いというかなり凄い制度で、第四類を合格していれば勉強がかなり楽になるというものです。乙種第四類受験時とは異なり、過去問メイ



合格を目指してコツコツ学び続けた日々

ンで周回しながらテキストを読むという方法を、プライベートと両立させることを意識しながら取り組みました。一日に2時間程度、暇があればその時間にゲーム感覚で取り組むという手法を取りながら2ヶ月程度勉強をしました。結果としてはいずれも8割以上を得点し合格しました。

次に乙種第一類、第三類、第五類をまとめて勉強しました。「第二類と第六類の試験の時と同様に免除制度を活用しているので楽か」と思いきや、そんなことは全くありませんでした。まず全体としてカタカナの用語が多く、乙種第五類に関してはどれもカタカナだらけで最も苦戦しました。その上、乙種を3種類一気に受験したために、覚える危険物の総数は60個をゆうに超えており、とにかく暗記をするために紙に書いたりすることで記憶を定着させました。勉強時間は一日3時間程度、この時はアルバイトもしていたので、スキマ時間を全力で活用することを軸に勉強時間を捻出して、前回と同様に過去問を大量に周回する方法を講じることで、全体的に7～8割を得点して合格しました。



甲種合格に向けて活用した参考書

### 4 終着点、甲種という憧れへ

危険物取扱者の乙種全類を制覇したあと、アルバイトに力を入れていた私は甲種危険物取扱者の受験をしようかずっと悩んでいました。「この試験に受かる確証は無い、この試験を受けるという行為は自分の身の丈にあっていいのか?」と自問自答する日々が続いてしまっ

たことで情熱を失い、甲種危険物取扱者の受験を一時はやめる決意をしました。しかし憧れまでは捨てられず、胸の中には甲種危険物取扱者に対する羨望がずっと残っていたこともあり、急遽令和7年1月に受験をすることにしました。

参考書から読み始めて勉強を始めてみても、物理化学や法令がより複雑かつ難解なものになっており、過去問に関しては従前のノウハウが一切通用しないほどまでに難しくなっていて、その度に挫折を繰り返していききました。しかし、憧れを捨てたくないと言った一つの理由から、アルバイトの休憩時間や学校の休憩時間、自分が自由に使えると判断した時間を全て使って勉強をしていました。「一日に何時間勉強をする」という指標を一切立てず、一日の限界が来るまで勉強することを意識したことで、1ヶ月経った頃には500ページ超の過去問を3日で一周程度できる域に到達しました。さらにスマートフォンやYouTubeなども併用することで知識を固めて行くことにもより注力したことで、試験直前に風邪を引くというアクシデントにも一切動じずに、物理化学を10割得点して一発合格。長年の夢が叶った私は、この時に初めて自分に自信を持つことができました。

### 5 おわりに

中学生の頃に抱いていた、劣等感の克服という理由から危険物取扱者の受験を始めて、はや数年が経ちました。甲種危険物取扱者の合格へ至るまでの幾多もの経験と知識、そして努力が今尚私の中で生きていて、それらは間違いなく私を変えてくれました。「努力とは何か」、そんな考えと向き合えるきっかけを作ってくれた危険物取扱者という資格と出会えて、私は本当に幸せだと思っています。

この経験が活かしているのか、現在、宅地建物取引士に挑戦しています。そしてこれからも、私が追い求める理想を目指して、全力で楽しみながら精進しようと思えます。

# 合格 記



佐藤 輝 さとう ひかる  
北海道北見工業高等学校  
電子機械科 3年

## 甲種危険物取扱者試験への挑戦

### 1 危険物取扱者試験受験のきっかけ

私は資格を取るために工業高校に入学したので、最初から危険物取扱者という資格を取ろうと決めていました。そして、1年生のころに電子機械科の先生から、乙種4類危険物取扱者の試験について説明を聞きました。そこで、乙種危険物取扱者には1~6類までであるということを知り、すべて取得するためにまずは乙種4類危険物取扱者を受験しました。

### 2 乙種第4類取得

学校で講習会を開いてくれたので、まずはそこでテキストの内容を勉強しました。法令、物理化学、性質消火の三つの科目を学び、重要なところにマーカーを引いたり、一区切りごとに練習問題を解いたりしました。テキストの内容が終わったら模擬問題をできるだけ多く解いていました。講習は放課後に1時間ほどあり、私は講習をなるべく休まずに毎日コツコツと取り組んでいました。私はテキストを読むことよりも問題を解くことを重視しました。ちょっとした空き時間にスマホアプリなどを使って勉強したり、家で過去問を解き、答えを確認することで理解を深めたりしました。

勉強の中で苦労したことは、危険物の名称や指定数量、引火点などの性状を覚えることです。覚えることが多く、練習問題を解いていると性状がこんがらがったりしてわからなくなることがありましたので、それぞれの危険物と共通しているところや、異なるところを意識して学びました。

試験前日はひたすら過去問を解いて、合格点を取れるようにしました。ですが、試験本番でいつものように実力を発揮できるかが不安でした。試験会場までの移動中も過去問を解き、会場に到着してからもテキストを読んで内容を詰め込みました。それから試験が始まり、問題を解き始めました。試験時間にはかなり余裕があったので一問一問しっかり文章を読んで解いていき

ました。難しい問題や、解答が合っているか怪しい問題には印をつけて後回しにし、一通り解き終わった後は念入りで見直しをしました。

数日後にインターネットで結果を確認してみると、合格していました。その後、結果通知書が届いたので再度合格していることを確認しました。通知書にある正答率を見ると法令が60%だったのでギリギリ合格でした。試験では全くわからない問題がいくつかあったので、出題されやすい問題は確実に解けるようにし、出題されにくい問題も何回か解いてみると良いと思いました。

### 3 乙種全類取得

乙種第4類に合格した私は次に全類取得に取り組みました。乙種を持っていれば一度に3種類まで受験することができるので、私はとりあえず一回目に乙種の1類・2類、二回目に乙種の3類・5類・6類を受けることにしました。さらに乙種を持っていれば性質消火のみの受験となるので、乙種4類の試験よりは簡単でしたが、二回目のときに3類と5類で覚えることが多かったので、6類を落としてしまいました。ですが、もう一度受けて

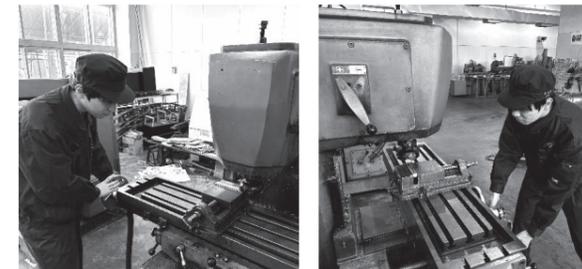


マシンニングセンタ  
実習風景



旋盤実習風景

6類を取得することができました。科目が性質消火のみなので主に参考書を読み勉強しました。試験については試験時間が1つの類ごとに35分でしたが、範囲が性質消火の十問のみだったので時間には余裕がありました。出題されると思っていないようなところが出題されてわからないところもあったので、頻繁に出る問題を確実に覚えて、解けるようにしたほうがよいと思いました。



フライス盤実習風景

### 4 甲種取得

危険物取扱者の乙種を全類取得した後、甲種は難しく一回で受かることができないのではないかと思います、早めに勉強に取り掛かりました。次の試験日はしばらく後なので、時間はありましたが、部活動などがあってあまり勉強に使える時間は多くなかったです。

甲種の勉強については参考書を買って勉強しました。他にもアプリやインターネットを利用して過去問を解きました。甲種は法令が変わらず、物理化学は範囲が広くなり、性質消火は問題数が増えて範囲が広がります。この中でも難しいと思ったのが物理化学です。参考書の解説を見ても大半が初めて見るような公式や名前だったので、理解するのに時間がかかりました。初めての試験では、やはり物理化学の問題が難しかったです。予想していなかった問題が出題されて、答えに自信が持てない問題もいくつかありました。6割合っていれば合格で4問までなら落としてもよいのですが、あまり良い手応えではなかったので不合格かもしれないと思いました。その後、家にハガキが届いて確認すると、不合格でした。3つの教科でそれぞれ一問ずつ足りませんでした。あと少しで受かりそうだったので、次の試験の申込みをしました。二度目は、前回の反省を活かして苦手なところを克服しました。試験の手応えはまあまあできたと思ったのですが、ハガキを確認すると、法令だけ一問足りませんでした。次で受かると思ったので、三度

目の正直で受験しました。その時期は履歴書を書いたり、色々と忙しかったので不安だったのですが、数日後に家に帰宅すると結果通知書が届いており、中を見ると合格の文字がありました。



CAD実習風景



エンジン実習風景

### 5 甲種危険物取扱者を取得してみよう

甲種危険物取扱者を取得して思ったことは、うまくいかなくても継続的に努力するべきということです。たとえうまくいかなくても諦めないでとりあえずやってみる。難しいところや苦手なところはできるようになるまで繰り返す。そういうことが大事だと思います。

ですが資格試験には多くのお金がかかります。私の場合は3回分の試験手数料、参考書代だけで7万円から8万円ほどかかっていたので、2回受験に失敗した分、余計にお金がかかってしまいましたが、これほどの金額を自分に使ってもらったので、親にはとても感謝しています。



生徒ホール